

東だより

武蔵野東学園広報 第63号

2024年 3月18日発行

〒180-0012 東京都武蔵野市緑町2-1-10

TEL 0422-52-2211 (代) FAX 0422-53-1090

<https://www.musashino-higashi.org>

みんなを幸せにするインクルーシブ教育

武蔵野東第一・第二幼稚園長 加藤 篤彦

昨年7月11日に朝日新聞で本園の記事が全国版にて紹介されました。皆様の目にも留まったでしょうか。その記事を読んだ時事通信社出版局より、本にまとめませんかとの誘いをいただいたのです。当学園もちょうど60年の節目を迎える時であり、今までの取組みをまとめる機会になる。ありがたいご縁だなど快諾した次第です。

表題が本のタイトルです。編集者に本園の取組みを説明している中で、編集者がまとめられたのがこのタイトルでした。「混合教育」の園がめざしてきたことは、こういうことだったのだと、外部の視点での提案が、ずとんと私の腑に落ちました。

ちょうど卒園をする保護者の方から「みんなが幸せになるインクルーシブ教育」につながるメッセージをいただきましたので、その一部をご紹介します。

「武蔵野東学園に入り、熱心な先生方、理解のある保護者の皆さんの温かいコミュニティの一員になり、純粋に子どもの成長を喜べる心の土台が親の私達にも育まれた気がします。これからの長い子育てのなかで、幼稚園の先生方と一緒に目標に向かい親子一丸となって過ごした濃密な時間は、挫けそうになったとき、つまずきそうになったとき、そのたびに必ず私達家族の原動力となり、きっと『また頑張ろう』と気持ちを立て直す大事なパワーになります。」

子どもだけが頑張るのでなく、子どもを真ん中にして、保育者もご家族もみんなで取組み、成し遂げていく経験の大切さを受け止めてくださった言葉でした。ここに記していただいた「温かいコミュニティ」は、少人数クラスの保護者はもちろん、通常クラスの保護者の皆様のまなざしも含まれています。園では、それぞれの子どもたちに自分の成長の起点となる足場があって、そこからそれぞれに保育者と友だちと一緒に頑張って向上をめざしています。それを我が子のみならず、みんなの保護者が一緒に応援する。これが、「みんなを幸せにする幼稚園」のシステムなのです。

これを自著では、6章に分けてご説明し、東幼稚園を濃厚に詰め込みました。3月21日の発売予定です。すでにネットでは予約が可能となっておりますが、新宿紀伊国屋レベルの大きな書店や、吉祥寺でしたらジュンク堂やブックファーストには入荷されるだろうとのこと。お手にとってみていただくこともできそうです。(置いていなければ、どうぞ各書店員に依頼して宣伝してください!)



第59回／園まつりと発表会

幼稚園

○ 2023年11月10日～12日 園まつり

創立59周年を迎えた幼稚園、今年も3日間にわたる園まつりが開催されました。創立記念式典には久しぶりに地域の方々もお招きして、子どもたちと一緒に創立のお祝いをする事ができました。園まつりでは今年も子どもたちの思いが詰まった一つ一つの作品が展示され、見学に訪れた保護者の皆様や未就園の方々も子ども達の素敵な世界を楽しみました。

今年から催し物も復活し＜ふわふわサーカス＞さんが子どもたちに素敵なショーを披露してくれました。ふわふわサーカスさんには、事前に遊びや挑戦のきっかけとなる要素を取り入れてほしいとお願いし、ショーは東幼稚園オリジナルストーリーで縄跳びを取り入れていただきました。園庭で繰り広げられたショーは、子どもたちとステージが一体となり、最後までみんなが没頭した特別な時間でした。



催し物／ふわふわサーカス

○ 2024年2月10日 発表会 ～武蔵野市民文化会館大ホール～

今年も午前と午後に分け、身体表現と音楽表現の二部構成のプログラムで開催しました。年少・年中さんは、美味しそうなおにぎりや宇宙飛行士に扮して踊ったり体操したり、ジャンピングボールや三輪車などの移動教具を使って舞台を駆け巡ったり、歌やリズムカルな曲に合わせて楽器を演奏しました。



親子一緒に＜発表会＞

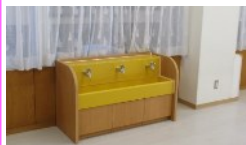
年長さんの身体表現では、世界の国をテーマにした踊りを今年も自分が興味を持った国を選んで取り組みました。日々の生活の中で「踊りたい」という気持ちを大切に、友達と一緒に練習を重ねて、舞台の上で生き生きとした表情で踊っている年長さんの姿が印象的でした。

そして当日は、東小学校の生徒がアナウンスを担当し、また東中学校のダンス部のみなさんが素晴らしいダンスを披露してくれました。さらに、保護者だけでなく多くの祖父母の方々も会場に応援に駆けつけ発表会を盛り上げてくださいました。

また今年は、りんご・いちご組（満3歳）も親子で舞台に登場して、先生と一緒に動物のまねっこ体操をしました。小さなお友達の踊りは本当に可愛らしく、最後に親子でポーズを決めて会場から温かい拍手をいただきました。

○ 満3歳クラスに手洗い場の設置

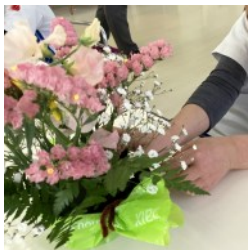
冬休み中に、満3歳クラス（1階の園庭側保育室）に新たに手洗い場を設置しました。学齢2～3歳の子ども達が使いやすいサイズで、保育室内に設置されたことで、子ども達が利用しやすく、また生活する上でとても便利になりました。



かわいい手洗い場

○ 感謝の気持ちをお花に込めて

2月中旬、毎年卒園を迎える年長さんが、感謝の気持ちをお花に込めてご家族のみなさまに送る「花育」を行いました。一人一人が好きな花を選び、お花の高さや向きを考えながら今年も素敵な花のプレゼントができました。



花育

○ 後援会サークル活動

保護者の皆様方のご支援とご協力により、今年も様々な後援会サークルの活動が行われました。

子ども達を交通事故から守る活動、絵本の読み聞かせ、音遊びや合唱のコンサート、お芋ほりや園まつりの手伝い、そして行事を盛り上げてくださったお母さん方のダンスや盆踊りなど、このゆびとまれ方式で、やれる範囲で・やれることを・地に足をつけた活動をモットーに、園児の身近な場所で活躍していただきました。



卒園コンサート

また、園庭の花壇の手入れやハンドメイドの制作、交流保育見学会『スマイルカフェ2023』の開催など、子育てに関する学びや気軽なおしゃべりを通じて保護者同士が温かく繋がる自然な交流の機会がありました。



交流保育見学会スマイルカフェ2023

どの活動も子ども達の環境を支え、園生活を豊かに彩り、また保護者同士の交流や繋がりも深まり、幼稚園生活をより充実した時間にしています。

○ 武蔵野東幼稚園の教育の発信！

・ラジオ「わがまち・武蔵野人」

2024年2月23日ゲスト出演/加藤篤彦
☆むさしのFM78.2番組HPから
いつでも視聴できます！

むさしのFM



検索



小 学 校

小学校発表会

小学校発表会が2月20日に「府中の森芸術劇場」にて行われました。昨年までの舞台上の人数制限も緩和され、2学年が一同に舞台上で演技・演奏ができ、迫力のある発表となりました。1年間のまとめであるこの発表会は、今回で47回目を迎えました。「音楽」と男子は「マスゲーム」、女子は「ダンス」（5.6年生は選択制）の発表があります。

ABクラスでは3年生からバイオリンの指導が始まりますが、6年生はオーケストラを結成し発表会のまとめとなる演奏をします。CDEクラスの体育（マスゲーム）では、低学年のバランス器具を使用した演技、高学年のマット運動など1年1年の積み重ねが感じられる発表でした。たくさんの声援と拍手をいただき、今年度もまた一つ自信をつけることができた発表会でした。



図書室 電算化

東小学校の図書館「東の広場」が今年度ついに念願の電算化をしました。まず、古い本や破損した本を選別し、廃棄しました。12月4日から19日にかけて10,000冊すべての本にバーコードを貼り、書誌情報と紐付けを行い、年明けの1月16日には、本の検索システムを導入しました。これまでは貸し出し期間票とカードに学年・クラス・名前を記入してもらって貸し出しを行っていましたが、これからはバーコードを読み取るだけで完了という形になりました。そして、2月1日から開館。11月の半ばから、ずっと待っていた子どもたちはとても喜び、一斉に本を借りにきてくれました。昼休みには長い列ができるほどでした。以前に比べ、貸し出し・返却の手順が簡単になったので、子どもたちにはとても好評です。また、2022年7月にできた「ぼけっと図書館」という検索システムも今回導入しました。東の広場以外でも、ネットに繋がることのできる場所ならどこでも本の検索ができるシステムです。いつでも読みたい本に出合え、調べ学習や授業での本の利用にも役立つので、子どもたちに有効に活用してほしいと思います。電算化した事で少しでも小学校の本の利用が活性化される事を願っています。



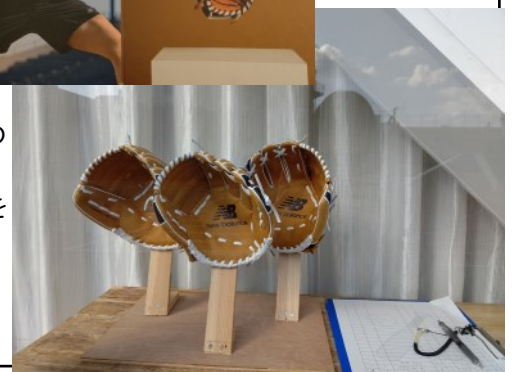
グローブが届きました！

ロサンゼルス・エンゼルスの大谷翔平選手より、グローブが寄贈されました。3つのグローブ（右利き用2個、左利き用1個）とともに、大谷選手からのメッセージ、カードも同封されていました。

全校集会で子どもたちに紹介し、まずは、一人ひとりが手にできるよう全クラスに回しました。その後は、職員室で管理し、野球クラブや日々の遊びの中で自由に活用できるようにしています。

「野球しようぜ!」という大谷選手の思いが多くの子どもたちに伝わることを願います。

大谷選手が移籍先のドジャースでも活躍されることをお祈りしています。



中 学 校

探究科の取り組みと全国学芸サイエンスコンクール入賞

1・2年生の正課授業である「探究科」では教科学習の枠をこえ、「知りたい」と思うことを「問い」にして、オリジナルの「答え」を構築していく活動を行っています。まとめとして毎年学園祭で、1年生は探究の基礎を学ぶゼミの取り組みの成果を、2年生は約1年かけて自分の関心のあるテーマについて取り組んだ個人探究の成果を発表しています。2年生の個人探究校内審査で優秀賞を得た作品のタイトルは右に示したように多岐にわたりますが、「その探究は誰のためになるものか」、また「社会に目を向けたものか」という観点をもって生徒たちはテーマの設定をしてきました。

また、今年度も3年生が昨年(2年次)提出した探究科の作品の中から優れたものを選抜し、学校代表として旺文社主催 第66回「全国学芸サイエンスコンクール」に応募しました。歴史あるこのコンクールは、今回も8万点を超える応募があり、社会科自由研究部門(中学生の部)の1,865点の応募作から次の2名が見事「入選」に選ばれました。本校では5年連続の上位入賞となります。

《 旺文社赤尾好夫記念賞 社会科自由研究部門 入選 》

3年 奥川さん 「オノマトペの可能性 ～コミュニケーションからの応用～」

3年 早川くん 「色で変わるポスターの印象」

2年生探究 優秀賞

・「視覚に不安のある母にとって見やすい文字とは」

伊藤さん

・「美しい日本語」

栗林さん

・「もし中学生が夏休みに10万円稼ぐことを目指したら
～自力でプチ起業してお金を稼ぐ方法～」

渋谷さん

第37回毎日カップ
「体力づくりコンテスト」全国13位

第37回毎日カップ「中学校体力づくり」コンテスト(毎日新聞社主催)で、全国で4,072校がエントリーする中、全国上位13番目となる「優良賞」を受賞しました。この審査は3年生の新体力テストの数値を元に、学校での独自の体力づくりに関する取り組みが総合的に評価されます。表彰式には3年生と体育科の先生が参加しましたが、全国から代表32校が集まる中、東京都からの選出は本校含めて2校のみでした。

新体力テストにおいては、各個人の総合評価は5段階に分かれますが、本校の男子は上位2段階に57.8%、女子は80.0%が入るなど、全国でも総合評価が高いことがよくわかります。3年間の継続した取り組みが評価され、身体が大きく成長するこの時期にしっかりと体力をつけられたことは生徒にとって大きな自信に繋がったようです。



2023年度 高校入試 合格状況

15歳という心身ともに成長した時期に、将来を見通し、自分の可能性を追究する受験の機会は、生徒を大きく成長させます。本校の3年間には、学習のみならず行事の企画や運営、部活動での活躍、探究科や生命科での学びからの人間的な成長があります。それらが自らの進路選択に結びつき、また実際の受験を乗り越える力にもなっています。近年の入試に取り入れられている自己アピール面接や小論文においても、諸活動からの成長の成果が実を結んでいます。

受験に向けては、進路指導をAB組のカリキュラムの一環に位置づけ、校内指導だけで十分に対応する態勢を整えています。今年も将来の目標に照らしてそれぞれが合格を果たし、進路を決めました。

〔国立〕東京工業大学附属科学技術

〔都立〕日比谷(2名)、西(2名)、国立(3名)、八王子東、立川(2名)、国際

〔私立〕早大高等学院、早稲田実業(2名)、慶應義塾女子、慶應義塾志木(3名)、国際基督教大学(2名)、市川、明治大学明治、明治大学中野、明治大学八王子(2名)、桐蔭、桐朋(2名)、立教新座(2名)、中央大学杉並(2名)、成蹊、広尾学園、明治学院、明治学院東村山 他

高等専修学校

第19回「私のしごと」作文コンクール 2名受賞

高校生や高等専修学校生に「職業」や「仕事」について考える機会と発表の場を提供し、若者の職業観や勤労観を育成することを目的に、第19回「私のしごと」作文コンクールが本年も行われました。職業教育を行う本校は、職業や仕事について振り返る機会として、毎年このコンクールに積極的に応募してまいりました。全国から2,565編の作品が寄せられ、本校から2名の作品が受賞しました。併せて、今年度も優秀団体賞をいただくことができました。

○専門学校新聞社賞 3年 影山 直生さん 題名「志」

○全国専修学校各種学校総連合会会長賞 3年 渡邊 花帆さん 題名「私の目標について」

二つの作品ともに、本校での混合教育での経験が、自分の将来の目標に影響を与えていることが書かれています。影山さんの文中に以下のようなくだりがあります。「それは多種多様でその人を思い、寄り添うことで見えてきた。その中で意外な一面に出会えたり、行事などを通じて友達の記憶に残ることがうれしくて楽しかった。もちろんいいことはかりではなく、自分の思いを伝えられなかったりして力量不足を感じることもある。だが間違いなくほかの学校では体験できないことが続く毎日で、それは貴重なことであると同時に強みでもあると思えた。」

本校でしか体験することのできない経験を、卒業後も社会で生かし、広めてくれることを期待しています。

2023年度「目指せ〇〇〇」チャレンジ

本校の魅力発信の一環として、「目指せ〇〇〇」イベント・コンテストへの挑戦!として、積極的な取り組みを行っています。今年度、賞をいただいた二つのチャレンジをご紹介します。



1年 初谷さん
「楽しそうに
荷物を運ぶ馬」

○絵画コース

第35回全日本高校デザイン・イラスト展(ADEC主催)

全国区努力賞 3年 脇 菜日留さん 作品名「木漏れ日」

東日本地区賞 2年 田口 ありさん 作品名「心のゆく手」

○調理・製菓コース

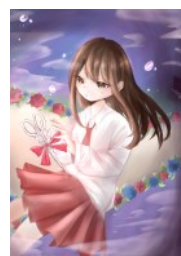
第2回全国高校生ばん馬キャラ弁コンテスト(とかち馬文化を支える会主催)

優秀賞 1年 初谷 美祇さん 作品名「楽しそうに荷物を運ぶ馬」

今後も様々なイベントやコンクールなどで、生徒の日頃の活躍を披露し、積極的にアピールをしていきたいと考えています。



3年 脇さん
「木漏れ日」



2年 田口さん
「心のゆく手」

インターナショナルスクールとの交流



作品の前で記念撮影
(本校での交流)

1月16日に「聖心インターナショナルスクール(ISSH)」との美術交流授業が行われました。これは美術を通しての国際交流を目的として始められたもので、新型コロナウイルス感染症の影響で3年間中止となっていたため、4年振りの再開となりました。今回はISSHから13名の生徒が来校し、本校の生徒と一緒に長いロール紙に「鳥獣戯画現代版」の制作を行いました。最初は言葉の違いに戸惑いを感じる生徒も多くいましたが、次第に打ち解け、後半は笑い声が多く聞こえるようになりました。終了後には帰りたくないと思ふ先生に懇願するISSHの生徒もいた程で、とても良い交流ができました。また、2月21日には本校の生徒がISSHを訪問しました。スパゲッティとマッシュ

マロを使ってタワーを作る授業では笑顔ながらも白熱した戦いが繰り広げられました。その後は生徒が出身国を代表して歌や踊りを披露するOne World Dayを見学し、交流がより深まった一日となりました。



共同作業で作品制作
(ISSHでの交流)

ホームページをリニューアルしました

1月から教育センターのホームページが新しくなりました。内容のアップデートだけでなく、スマートフォンからも見やすいレイアウトに一新し、ユーザーが必要な情報をすぐに見つけられるようにしました。療育のスケジュールも、学年とプログラムを色分けした表や写真を使って視覚化し、希望しているプログラムがどの曜日や時間に行われているかが一目で分かるようになっていました。また、教育センターの日々の出来事を紹介する最新トピックスをInstagramとリンクさせ、アップデートされた内容がフォローしているユーザーにリアルタイムで配信できるように整えました。このホームページを通して、教育センターの子どもたちの活気と我々のモットーである“Heart to Heart”の取り組みを、より多くの皆様にご理解いただければ幸いです。

第3回 保護者・支援者セミナーの開催

2月8日に、開業助産師・保健師の有馬祐子先生をお招きして、「こどもの性教育に向けて知っておくと安心できること～家族みんなで考えてみましょう～」というテーマでご講演いただきました。有馬先生は、千葉明德短期大学・東京未来大学非常勤講師、日本思春期学会理事、日本思春期学会性教育認定講師としてもご活躍です。

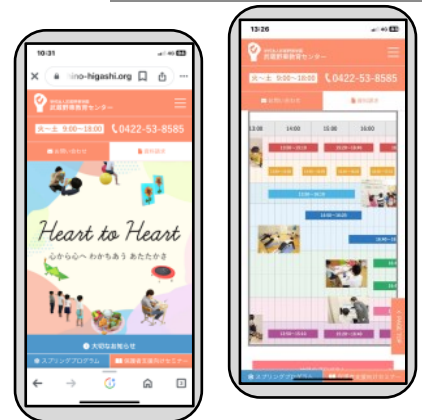
性教育というと、子どもへの伝え方が難しくセンシティブなこととして身構えてしまうことが多いものですが、有馬先生の講演では、「自分と他人の心と体の健康の守り方」という観点から分かりやすく解説してくださいました。親から子に伝えることの難しさを踏まえ、子どもたちが年齢ごとに学べる絵本や書籍、主体的に学べるおススメのウェブサイトの紹介もありました。教え方が難しい、教えても分からないだろうなどと言って曖昧にせず、対象者に相応しい方法で正しい知識を身につけさせることが大切であるというお話が印象に残りました。よく言われがちな「寝ている子は起こすな（不要なことをしても逆効果だ）」ではなく、「寝ている子は科学的に起こすべきだ」という考え方が本質的ではないかということでした。

参加者からは、「人と人との関わりを中心とした丁寧な説明でとても参考になりました。」「はずかしいことではなく、生きていく上でとても大切な教育であることに初めて気づきました。」といった感想が寄せられました。

教育センター オリジナルドリル

前号の東だよりでもお知らせしたとおり、幼児や低学年向けの知育ドリルと、ご希望の多かった数の概念やお金の数え方を学べるドリルを発刊しました。知育ドリルは、「せんのおけいこ」「おおきい・ちいさい」「ながい・みじかい」の3種類をそろえました。これらは生活に必要な認知で、読み、書き、計算といった教科学習の基礎となる内容です。「かず」のドリルは2部構成で、数の数え方から合成分解までを学べるようになっています。特に「かず2」の合成分解は、付録の数カードとQRコードでリンクさせた動画を使い、視覚と操作を通して学べる画期的なドリルになっています。「お金ドリル」は、硬貨の種類や数え方を中心に、子どもたちがつまずきやすい5円、50円、500円の数え方も分かりやすく学習できるようになっています。どのドリルも、認知発達の段階を考え体系的にまとめてあるのが特徴で、内容ごとに学び方のステップが分かるように構成されています。現在22種類のドリルが発刊されており、種類や内容は教育センターホームページから更にご確認いただけます。教育センター受付で随時購入できますので、ぜひこの機会にご利用ください。

教育センター



スマホでも見やすいレイアウトに一新



性教育のイメージが変わったとの感想も...



性教育関連のおすすめ書籍の紹介



知育ドリルは今後も種類を増やす予定です

学園総合

寄付金申込者お名前 (2023年9月16日～2024年2月24日)

遠藤博様、佐藤浩二様、田中法臣様、仁藤秀子様、早船渉様、Jason Xi様
株式会社大島屋様、株式会社共進プロセス様、きらぼし銀行 三鷹支店様、株式会社グッディーホーム様、
株式会社グリーンシステム様、有限会社桜井教材社様、株式会社スクール服装様、株式会社すまいの住空間様、
関前福祉の会様、関前コミュニティ協議会様、多摩信用金庫様、多摩信用金庫 武蔵野支店様、
中央建物管理協同組合様、東京管公学生服株式会社様、長谷川歯科医院様、株式会社日乃出造園土木様、
平山モータース株式会社様、緑町コミュニティ協議会様、武蔵野市緑町2丁目第2アパート自治会様、
株式会社武蔵野設備様、メックシステム株式会社様、幼稚園後援会様、小学校後援会様、中学校後援会様、
高等専修学校後援会様、高等専修学校友愛会様、後援会OB会様、匿名5名様

武蔵野東学園をご支援くださる皆様へ

武蔵野東学園では、「混合教育」・「生活療法」の更なる充実のために皆様からのご篤志を随時受け賜わっております。学園の実践する様々な教育活動、教育機器・設備ならびに施設の向上や奨学金制度の拡充などに活用させていただきます。ご支援のほどお願い申し上げます。

使途を指定してのご寄付について

学園の教育振興のための一般寄付のほか、幼稚園、小学校、中学校、高等専修学校、教育センター、山梨友愛寮・チロル学園や奨学金制度へのご寄付など、使途を指定したご寄付も受け賜ります。

税法上の優遇措置について

・個人名義でのご寄付の場合

「税額控除」・「所得控除」という2種類の寄付金控除を確定申告時にお選びいただくことが可能です。

・法人名義でのご寄付の場合

「受配者指定寄付金」または「特定公益増進法人に対する寄付金」どちらかの制度をご利用いただくことで、寄付金額を当該事業年度の損金に算入することができます。

①「受配者指定寄付金」としてのご寄付 → 寄付金全額を損金算入できます。

②「特定公益増進法人に対する寄付金」としてのご寄付 → 一定限度額まで損金算入できます。

詳しくは事務局企画広報室(TEL:0422-52-2211)までお問い合わせください。

学校法人武蔵野東学園 奨学金制度について

2014年4月に発足した「学校法人武蔵野東学園奨学金制度」。この奨学金は入学後に学資の支弁が困難となった場合、選考を通じ認定されれば年額 240,000円を納付金から減額する形で交付するものです。本制度は学資支弁が困難な園児・児童・生徒の就学を援助し、将来において社会に有為なる人材を育成することを目的としています。奨学金の種別は返済不要な給付型で奨学生の認定は原則的に毎年度3名としています。

その手順としては、各園校の教職員が検討をして候補者を学園に推薦。学園は毎年度1月に奨学生選考委員会を開いて翌年度の奨学生を認定します(緊急の対応が必要な場合は別に認定することも可能です)。

この奨学金は同窓会・後援会OB会からのご寄付や連合後援会賛助会員の協賛金を原資としています。

なお、本制度は最低6ヶ月間在籍している園児・児童・生徒を対象としています。